

2. 取組内容の進捗状況(平成26年度)



(東京外国語大学留学促進キャラクター:トビタくん)

■ 共通の成果指標と達成目標

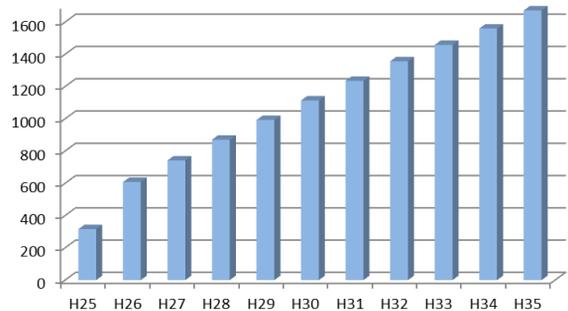
国際化関連

○ 留学生受入増への取組

- 交流協定校の拡大により、協定に基づく受入留学生が、前年(196名)に比べ、37名増加した。このほか、通年の受入留学生については、前年(698名)に比べ、35名増加した。
- 交流協定校に在籍する日本語学習者を対象とした、ショートステイ・ウィンター・プログラム(4週間の集中講座)を開催し、参加した5大学24名の留学生に修了証を授与した。
- 以上のような留学生受入れの増加により本学の国際化が進み、学生の学習環境の国際化が進んだ。

○ 本学からの派遣留学生増への取組

- 交流協定校の拡大や短期海外留学制度の開始により、協定校への派遣留学生が、前年(310名)に比べ、258名増加した。
- 交流協定校に日本語教育実習生を派遣することにより、日本語教室の運営、日本語教師に求められる基本的な知識及び技能を学ぶ機会を得、実践力を養うことができた。
- 派遣する学生を対象とした危機管理体制の充実に伴い、留学が円滑に推進できた。



〈派遣留学生数の目標推移〉

○ 広報の充実の取組

- 海外への広報を強化するため、27言語による大学紹介パンフレットの作成や英語による本学Webページのリニューアル、Global Japan Officeの情報を英語により発信することなどの取組を行った。

○ 教職員の多様化・高度化への取組

- 新たに採用した外国籍の教員が、平成27年度の学部世界教養プログラムや、大学院博士前期課程の授業計画に参画しているほか、高大連携事業や広報業務にも従事し、学生の国際理解や英語運用能力の向上、学生の確保や教育研究情報の発信に貢献した。
- 職員の学内英語研修への参加や、海外における業務従事(13名の職員が、延べ9ヶ国)により、国際化支援体制が強化された。

教育改革関連

○ 協定校とのJoint Education Program の実施のための取組

- 平成35年度の50プログラムを目標に、26年度は12のプログラムを実施した。

■モスクワ国際関係大学

ロシアを代表とする日本政治の研究者であるストレツォフ教授を招き「日ロ関係の課題と展望」をテーマとする集中講義及びセミナーを実施した。

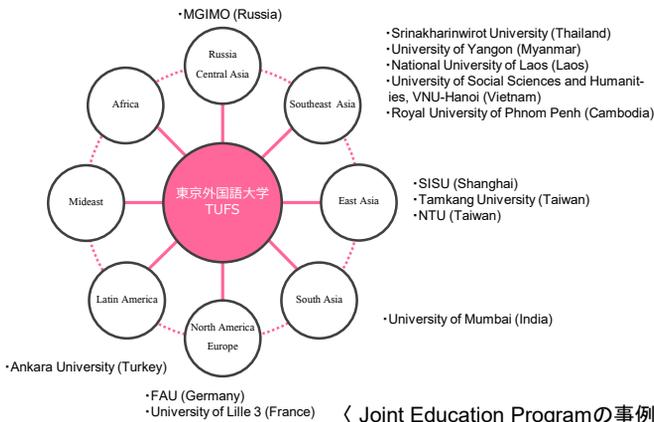
■エアランゲン大学

エアランゲン大学で日本語を学ぶ学生30名が日本に来日し、本学の学生とともに「日独タンDEM合宿」と「日本語教育専修コース・インターンシップ」を組み合わせたプログラムを実施した。

■淡江大学

本学学生が淡江大学の授業を参観すると同時に、自ら教壇にたち、日本語教育の実習を行った。

■大学院生を世界の9協定校に派遣し、協定校の関連分野の教員から指導を受ける機会を提供した。



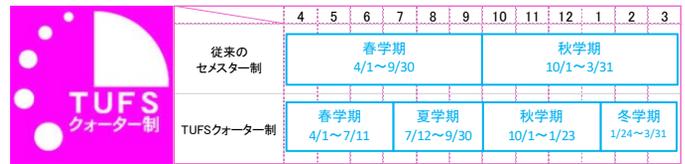
〈 Joint Education Programの事例 〉



〈 本学学生が海外で学習支援を行っている様子 〉

○ 教務システムの国際化の取組

- 平成27年度からのTUFSCクォーター制(春学期:4~6月、夏学期:7~9月、秋学期:10~12月、冬学期:1~3月)移行に向け準備を進めるとともに、同制度の夏学期を試行的に実施し、これにより短期の派遣留学が大幅に増加した。



	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
従来のセメスター制	春学期 4/1~9/30						秋学期 10/1~3/31					
TUFSCクォーター制	春学期 4/1~7/11		夏学期 7/12~9/30		秋学期 10/1~1/23			冬学期 1/24~3/31				

〈TUFSCクォーター制のイメージ〉

- シラバスの英語化・外国語化については、前年度(193科目)に比べ、315科目増加した。これにより教育の国際通用性が増加した。
- 4,351科目中3,071科目を対象にシラバスに関するアンケートを含む学生による授業評価アンケートを実施するなどして教育効果を検証した。その結果をもとに、教育の改善に取り組んだ。
- 「語学を中心にした教育指標の可視化」を達成するため、TUFSCポートフォリオの構築を行い、留学歴や語学の学習達成度をポートフォリオに組み込んだ。これにより、より効果的な学習指導を行う体制が整備された。

○ 学部新設・大学院改組等に関係して検討・実現する制度設計の取組

- 発信力強化プランの取組の一つとして実施する「全学教養日本カプログラム」について、平成27年度からの開始に向け、プログラム設計、パンフレット作成などの準備を行った。
- 国際バカロレア認定校からの入学者選抜により、本学の入試が多様化した。また、海外における渡航前入試の導入に向けた準備を進めた。

ガバナンス改革関連

○ ガバナンス改革への取組

- 学長の主導の下、意思決定を迅速に行うため、総合戦略会議を設置し、同時に、決定事項・方針を遅滞なく伝え、速やかに実行に移す体制を整備した。
- 本学独自の年俸制に基づき、前年(43人)に加え、新たに1名に年俸制が適用された。今後、平成27年度から新たに導入される年俸制により、教育研究の高度化や教員の流動性が更に推進される。なお、導入された年俸制に、平成27年4月1日より新たに6名の教員が移行することとなった。
- 入試課やIRオフィスに専門職員を配置し、海外での入学者選抜に関する調査・検討を進め、世界バカロレア認定校からの入学者選抜を導入し、入試の国際化に着手した。

■ 大学独自の成果指標と達成目標及び大学の特性を踏まえた特徴ある取組

○ Global Japan Officeの展開とTUFSC留学支援共同利用センターの取組

- 12月には、ミャンマーのヤンゴン大学及び台湾の淡江大学に、2月にはイギリスのロンドン大学にそれぞれGlobal Japan Officeを設置し活動を開始した。また2月には、エジプトのカイロ大学にGlobal Japan Deskを開設し活動を開始した。これらのオフィスでは、日本紹介活動、インターネットを経由した遠隔授業、本学学生の日本語教育インターンシップ等が実施された。
- 1月には、留学支援共同利用センターを開設し、本学学生の留学及び受入留学生の支援体制が充実した。

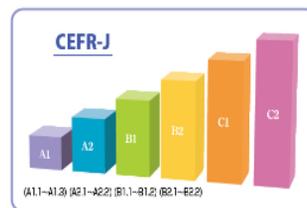


〈ヤンゴン大学Global Japan Office開所式の様子〉

○ 言語関係の取組

- 10月からの準備期間を経て、12月に「CEFR-J x 27プロジェクト」を立ち上げ、語学運用能力指標の開発に着手した。
- 卒業までの英語の最低保障の目標として掲げた「TOEIC800点」の達成者は、前年度(1,077人)比、△39人であった。また、TOEIC800点を達成した者の次の目標については、英語以外の外国語において[CEFR-J/C1]を達成した者は10名、また、英語においてTOEIC900点を達成した者は、348名であった。このような成果を学生・教員が共有できるよう、学務情報システム・ポートフォリオの改善を行った。これにより、学生の意欲向上につなげるとともに、本学の教育内容の改善につなげる。
- 外国語で開講される授業科目数は、前年度(144科目)比、5科目増加し、多言語による学びの場が実現した。

27言語全てをCEFR-Jによる統一基準で評価します。



TUFSC 27言語

英語 ドイツ語 ポーランド語
チェコ語 フランス語 イタリア語
スペイン語 ポルトガル語
ロシア語 モンゴル語 中国語
朝鮮語 フィリピン語
インドネシア語 マレーシア語
ビルマ語 タイ語 ラオス語
ベトナム語 カンボジア語
ウルドゥー語 ヒンディー語
ベンガル語 アラビア語
ヘルシア語 トルコ語 日本語

〈CEFR-J プロジェクトのイメージ〉

■ 自由記述欄

○ 平成27年度に向けて

本学の掲げる構想実現に向け、平成27年度も着実に取り組んでまいります。

- Joint Education Programの対象を、学部学生から大学院学生まで広げ、より多くの学生へ学修機会を提供します。
- 協定校への交換留学、夏学期・冬学期の短期留学が740名程度に拡大します。
- 世界中の協定校等に呼びかけ、ショートステイプログラムを拡充し、現状の40名程度から90名程度受入れます。
- TUFSCクォーター制による夏学期に多彩な科目を開講し、他大学や協定高校の学生等との共学を実現します。
- Global Japan Officeの設置を着実に展開します。(現状では、中国(上海)、韓国、メキシコ、ブラジル等を予定)